

全東大の最も先進的、戦斗的学友は、八犬スローガンの下、一切の日和見主義を克服し、自回帝回主義を打倒

へ全学バリケード封鎖を貫徹し東大斗争を再編強化

リワード封鎖斗争を不可避であることと、米露の侵襲を述べた。そして東大斗争を全学闘争に對して、日本階級斗争に對して班のバスタークは以下に示された八犬スローガンであり、唯一このスローガンの下に日共との対決を全学バリケード封鎖を貫徹することによってこそ、青年階級斗争の斗争が果敢出来るのであることを主張して居る。

我々はさうした斗いの最終的意志統一に對して再度その斗いの位置を明確にして置く事は出来る。

まず第一に、帝国主義的、露露期世專横から導かれる情勢をより具体化する事である。

その内容はヤーニニクソン体制をもたらす日米關係である。露露独占と軍部に依拠する共和党ニクソン政権が、政治においては、かの政治的封鎖電撃侵襲の拡大戦争論を唱えると同時に、経済においては、

の経済安定成長の財政支出削減による財政政策の實際収支対策における輸入制限、保和政略とこのことは至であり、この二つは政策の激化を促進的に作用する。

ニクソン体制に連なることはいつまでもな

一、NATOの安保粉砕、ヴェトナム革命勝利

二、日帝の侵略反革命の70年安保粉砕

三、日帝の中枢官僚養成機関、日大協定本山、東京帝大主

又大学を打倒し、人民大学に改編せよ

四、全学闘争を70年安保斗争への飛躍の場とせよ

五、コンミンユン原則の下、鉄の全人民的団結、大衆的斗争組織と武装行動隊を創出強化せよ

六、全学共斗公設を諸所を統合の環、ソビエト型全学評として再編し、全学連一地区反戦の反帝統一戦線の強化を克ち取れ

七、一切の改良主義、経済主義、組合主義、日和見主義粉砕

八、全東大人は全学共斗公設に結集し、七項目要求を八犬スローガンの下斗いに抜け

防衛強化、安保体制強化とともに、鉄鉞を振り、軍事行動隊など近き急速に對米輸出を仰

内閣の文には、フランスとドイツを併呑し招来さ

取る國際運使を併呑する。この通貨危機は、

この國際運使へ其の運使の弱体化を懸念とし

つ、その主体は論議し、一切上は懸念にさ

らさぬ強い西独マルクと、西に切下は

は、NATOの軍強化の要請をつきつける一方

ニクソンの資本自由化促進對外直接投資奨励

対日如輸入規制、マルク切上げ専断に警戒の

目を光らせ、鉄鋼価格切上げ、輸入規制、保

護政策の対抗を軸としていざだんと激化する

對米競争戦を、日独ブロックで乗り

日大東大の革命闘争を遂げよ

切ろうと日本アムニチティに懸念を表明している。日本アムニチティも多岐面を巡視しほぼ同様の位置にあり、このことは、世界帝国主義列強における日独の対抗心NATOの確保の発動として結実させんとしているのである。

それ故、さうした動向に規定された日帝の方向と日帝の東大斗争の方向を次に確認せねばならぬ。

昨日の自民党総裁選に關しての佐ト首相の北大政策の発表は三木の協調路線を大衆追随と批判し、喧嘩への大衆斗争との全面対決、自主防衛の強化、防犯力と関連しての押籠返還問題その他、大学斗争の解決をとりあてている。

さらに雅尾文相は二十日「場合によつては、大学の一つ二つつぶれても仕方がない。本来に日本のために争があるとなれば、断々の一字を振る以外にほり」の采意を示している。「日本のために」といつ中示さる東大の位置とは、とりもあらず、市場再開発戦における日帝金融支配体制強化に見応った東京帝国主義又大学の再編のことであり、それは、資本の階級性で改の産軍官学協同路線と政府中樞官僚養成と排外主義イデオロギーの産出と大学がいかにかへるかである。東大一万の学生と七千の職員、附属病院、研究施設このどれ一つとして日帝の動向を左右しないものはない、東大斗争はすでに権利に上つて排外主義の拠りかさも厚くばつてふすかの二者扱一の問題として迫られており、さうした認識の下に「現実にはきつめて慎重な態度をとり、大学当局を奨励し、打開の道を見出すよう努力している(雅尾)のである。

七項目をめぐり対立はすでにここまできている。七項目中の一項目一項目の語句は問題ではなくその内容目的意識性が決定的に対立しているのである、七項目貫徹せぬで我々にして全学バリケード封鎖は今や不可避の問題と信じているのである。それ故問題は、空学バリケード封鎖という事から加ト新執行部。日共の対応。新たな展望を我々はみていかねばならぬ。

予備折衝は加ト新執行部の「話し合い路線」の確立を大衆的に明らかにした。

加ト新執行部が唯一の方針は810の虎胆を自己批判や処分への白紙撤回にあるのではなく、「話し合い」ということへの対求められものである。それは、基本的に、国家権力と東大の対決の中で、最後の四天自主規制路線執行部として、大学の自治、教授会の自治」を穿ろうと必死になつてゐる執行部であり、政府アムニチティの「東大閉鎖」のどうかつと民衆の体制内改良方針にあって、「東大幻想共同

体内の吸収されてゆく大衆を、さもなくもいふこと

しかし、新執行部がいかにかに粉飾しようとも大学の自主的再編がうかされる方針は提起すべくもなく予備折衝はますます大衆に執行部のボコボコ制と大学の封鎖の必然性を提起せすにはあつたのである。今東大に入つてきつつけられたことは、自らの白牌封鎖と大学社会の共同利害、そして階級利害と市民社会の共同利害の限りない分裂にあつて、その統一の志向性を当局が話し合い攻めへの偽の民主主義形式を引く、さうから大学共同幻想の国家共同体幻想へ吸引するのには対して、この統一への志向の外化を対決力斗争の戦略と、その基地としての人民大学の提起と、実践の今におけるその体現としての三エーの四原則に基く團結形態の獲得である。

かくして我々は、七項目を包摂し、全東大諸階級諸階級を統括するハマスロガンを提出したのである。この戦略は導かれてこそ東大斗争が年代階級斗争への平躍の場として形成し、日大斗争と連帯し、全国学園斗争と統合することか出来るのである。戦略をもたぬ呈ての党派、潮流は動搖し、混亂し展望を失つてゐる。

民族民主革命から奪取される東大斗争の体制内改良主義は日帝帝国主義の容認が大衆から見放され、内部の動搖を余儀なくしている日共はもとより、さへ右派の拍頭におじろさ、22日全学集会、全学バリケード封鎖の位置を明確にしえてはいる。唯一の下の下が東大斗争の方針を提起し、その下に断固とした民衆との階級斗争から全学バリケード封鎖貫徹をたそつしてゐるのである。

全東大人はハマスロガンを基本的に認識し、大衆的斗争組織と、武装行部隊を創出し、全人民の武装の一環としての人民大学を担つコミューン、ソサエトと全人民の武装へ向つての展望を切り拓いていかねばならぬ。

東大學生はもとより七千の職員、研究者すべてを斗いの渦に巻きこめ、全学連一地区反戦との反帝統一戦線を獲得せよ!

東大日太斗争勝利
時計台前総決起集会
22日2時 結集

せよ